

第6回ネパール交流ツアーにて

はにかみ姫に会いました。

初めまして。スーと申します。ひょんなことから、仙台駅東口の『ネパールの家庭料理 カトマンドゥ』に通い始め、気が付けば、お店のマスター・サンジブさん(サンちゃん)の大ファンになっていました☆いつも陽気なサンちゃんが、「ネパールの子どもを学校に行かせたい」というときは、真面目になる。学校かぁ…今の自分があるのは学校のおかげ。学校に行けたのは、家族をはじめとする大人が守ってくれたから。学校だけは、子どもがどんなに行きたくても、子どもの力だけじゃ、どうにもならない。学びたい気持ちがあるのに学べない…そんな子どもの力になれるなら…そんな思いで始めたフューチャーフラワーでした。

サンちゃん：「子どもに会いに行こうよ！」
スー：「ええっ！お金ないよ！」
サンちゃん：「なんとかなるよ！」
スー：「仕事休めないよ！」
サンちゃん：「だいじょぶ！なんとかなるよ！」

いろいろな不安がありましたが、行っちゃいました、魅惑の国ネパールへ。そして、私が支援している子ども「ギタちゃん」に会えたのです。



おみやげは、バナナ♪

ギタちゃんは、学校の制服を着てきてくれました。髪には赤いリボン。緊張してたのか、第一印象はまさに「はにかみ姫！」。

日本から持ってきたシャボン玉、おもちゃ、絵本、風船…。つたないコミュニケーションだけど、ちゃんと通じた(気がする!?)。楽しい時間は瞬間間に過ぎていきました。

「ギタは学校が大好きだよ。」とギタちゃんのお母さんが満面の笑みで教えてくれました。こんな若輩者の私に、感謝してくれているのが伝わってきて、嬉しいのと同時に恐縮しました。



みんなで文房具をプレゼントしました。鉛筆削りの使い方を教えてあげようと思い、渡した鉛筆をちょっと借りようとしたら、ものすごい力で拒否されました。とりあげられるかと思ったんだって。なんだか切なくなりました。



確かに、ネパールという国がそこにあって、学校に行っている子どもがいました。制服は、きっと誰かのお下がりだと思いました。カバンはあるのかな。靴はあるのかな…そんな心配も心をよぎりました。でも、モノの不足はコミュニティの力でなんとかできること。私にできるのは、学校に行くというチャンスをあげることなんだな、と確信しました。

いつか、ギタちゃんが英語を話せるようになって、手紙をくれたらいいな。そう願って、私は日本の生活に戻ったのでした。